

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079400190		
法人名	有限会社 亀ハウス		
事業所名	グループホーム なごみ苑		
所在地	〒822-1201 福岡県田川郡福智町金田987番地	TEL 0947-48-3222	
自己評価作成日	令和04年10月03日	評価結果確定日	令和04年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL 093-582-0294	
訪問調査日	令和04年11月04日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設を設立して来年1月で20年になります。施設での利用者の生活状況や地域住民との関わりを持ち、グループホームの地域での役割を近隣の住民に理解して頂くために開かれた施設として日々活動していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「なごみ苑」は、地域に開かれた事業所を目指し20年前に開設した定員27名のグループホームである。元病院を改築した建物を、こまめな清掃と整理整頓、職員の創意工夫で居心地の良い家庭的な環境に作り替えている。地区の組に加入し、コロナ感染症対策以前は、地域の文化祭への作品の出版、地域行事への参加、ボランティアや実習生の受け入れ等、地域との交流や認知症の啓発に取り組んできたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。毎月、利用者の笑顔の写真を載せた「なごみ苑便り」と、半年毎に「なごみ苑利用者近況報告書」を家族に送付し、大変喜ばれている。また、ホーム厨房で作る美味しい料理と、焼きそばや焼肉、お好み焼きを作って食べる食レクは利用者の大きな楽しみである。施設長の温かな人柄が職員の定着に繋がり、職員間の関係も良好である。利用者一人ひとりと丁寧に向き合い、職員が丸となって利用者本位の暮らしの支援に取り組んでいる、グループホーム「なごみ苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事務所に掲示し、毎日朝礼後全員で唱和し実践につなげている。	ホームが目指す理念を見やすい場所に掲示し、コロナ禍以前は朝礼時に唱和して理念を共有していた。(現在は密を避けるため集まっての朝礼は控えている)地域交流を理念の一つに掲げ、町の中心部にある地の利を活かした地域との関わりを大切にしながら、利用者の穏やかな暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響下において制限される事も多く交流も難しい	地区の組に加入し、今年は新型コロナ感染症対策のため行事は中止になっているが、例年であれば地域の文化祭への作品の出展や県立大の実習生、地域のボランティアの受け入れを行っている。ホームで使用する食材や物品は、出来るだけ地域の商店で購入し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のコロナ下のもとで推進会議を開催出来ず区長の方々との交流が途絶えている。今後の感染状況により再開していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催されていない現状でなかなか利用者の現状、介護度、等報告が出来ていない。	コロナ対策以前は、運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、家族、区長、民生委員、町職員の参加を得ていた。参加委員からの意見を検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉課の担当者と今後は活動報告等で施設の現状を理解して頂くようにしている。	運営推進会議に福智町職員の参加があり、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。(現在はコロナ禍で休止している)管理者は、ホームの空き状況や事故等を報告し、疑問点や困難事例の相談を行う等、行政と連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止事項に関して職員間で話し合いケアに取り込んでいるが、やむを得ない際は家族の同意の元拘束をするケースもある	施設長や各ユニット管理者参加の下、虐待防止委員会を3ヶ月毎に開催し、同時に身体拘束の研修を行っている。委員会の中で、身体拘束に関する具体的な禁止行為について事例を挙げて話し合い、職員一人ひとりが理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、毎月スタッフ勉強会で学ぶ機会を持ち小さな変化も見逃さない様、日々の生活の中でも注意している。又、委員会を立ち上げ意見を出し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で定期的に学習し学ぶ機会を設け理解につなげるよう努めている。	権利擁護の制度に関する資料を用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の活用に向けて支援できる体制を整えて、利用者の権利や財産が不利益を被らない支援に取り組んでいる。現在、制度を活用している利用者がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約に関して重要事項の説明や苑で生活されていく中での不安な面や要望・質問等説明を行い利用者や家族に理解・納得して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時・電話での対応等で意見・要望を反映できるよう努めている。	日常会話の中から利用者の意見や要望を把握し、職員間で情報を共有している。新型コロナウイルス感染症対策のため面会は制限しているが、電話等でコミュニケーションを図りながら、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や時間の合間・ノートを活用し毎月の会議にて提案している。	職員会議は、毎月第1土曜日の日中に1時間半から2時間かけて開催し、意見や要望、気になる事等の提案を受けて話し合い、意見や要望がホーム運営や業務に反映できるよう努めている。また、申し送り時や業務の中で、気付きや心配な事等をその都度話し合い、管理者と相談しながら、解決に向けて取り組んでいる。	会議の日に参加できない職員の意見を事前に収集する仕組みを作り、全員で情報を共有していく事を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ職員が働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたり特に性別・年齢等で採用対象から排除していない。自己実現の権利についても保証されるよう配慮している。	職員の処遇を少しずつ改善し、それぞれの事情に柔軟に対応し、職員が働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。施設長や主任が小まめに職員の話聞いて対応し、3ユニットの大所帯であるが、職員間の関係が良く、離職も少ない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する人権を尊重するために毎月の勉強会で話し合っている。	利用者の人権を守る介護の在り方を職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意している。また、ホームの勉強会の中で、利用者の人権について学ぶ機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアのやり方を把握すると共に職員のトレーニングをケアに反映している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少なく相互の訪問の活動も出ていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人および家族からの話・要望等耳を傾けながら安心して苑での生活を過ごせる様努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事、不安・要望等は耳を傾け関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々で本人・家族と話し合い、必要としている支援を見極めサービスの提供が出来る様努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の場面で互いが助け合いお互いが支え合える関係性を築けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、面会は自粛して頂いているが、電話・手紙にて最近の様子を伝え絆を大切に本人様を支えていけるような関係性を築いていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との交流が少なく年齢を重ねるごとに関係維持が難しい。	入居前の利用者の生活環境や人間関係を把握し、出来るだけ馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいる。馴染みの美容室の利用や同級生の定期的な面会、家族との外出等、長年培ってきた関係が、ホーム入居によって途切れないよう支援してきたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でお互い助け合う場面も多く見られるが、孤立しがちな方には職員が間に入り支え合えるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は家族から接触がないことが多い為、相談・支援が出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の意向にそった支援を職員・本人と話し合い検討している。	長く勤めている職員が多く、利用者とのコミュニケーションを取りながら、一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努め、得られた情報は職員全員で共有している。意向表出が困難な利用者には、家族に相談しながら職員間で話し合い、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際家族・ご本人・かかりつけ医等話を伺いこれまでのサービス利用の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の状態把握が出来る様日々の生活から状態の変化等の見極めが出来る様努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を取り入れ必要関係者との話し合いの中で現状に即した介護計画書が作成できるよう努めている。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングで、課題やケアの在り方について話し合い、関係者と相談しながら3ヶ月毎に介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的ユニット会議を行うと共に日々の気づきをずきを記録に残し職員間で情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ柔軟な対応を心がけ職員間で話し合いサービスの多機能化が実現できるように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の状態に応じた支援で出来るだけ安全で楽しみの持てる生活を送れる様支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診等は本人・家族の希望に沿った医療機関で適切な医療を受けられる様に支援している。	入居時に利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。ホーム提携医による月2回の往診と、訪問看護師、介護職員の連携で安心の医療体制が整っている。また、他科受診が必要な場合はホーム職員が対応し、希望に沿った医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に日常の状態報告を行うと共に適切な医療が受けれる様に必要に応じて電話連絡を行いアドバイスや指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者及び訪問医・看護師と情報交換や相談し関係づくりに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から家族・本人と話し合い方向性・説明を行っている。又、それに基づき医療関係者と連携を図っている。	契約時に、重度化や終末期に向けた方針について、利用者や家族に説明し了承を得ている。利用者の重度化が進むと主治医に相談しながら家族と話し合い、関係者で方針を共有し、一日でも長くホームで過ごせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応が出来る様、勉強会等で話し合い対応している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は定期的に行っているが、水害・地震対策は不十分などところが多く、地域住民との関係性も構築できていない。	日中想定避難訓練を年2回実施し、避難経路、一時避難場所の確認を行っている。2つの河川に挟まれた低い土地にあるため、水害時には2階に避難することを確認している。また、非常食として、缶詰のパンや麺類を準備している。	夜間想定、水害、台風、地震想定訓練にも取り組んでいく事を期待したい。また、いざという時の地域との協力関係も運営推進会議を通じてお願いしていく事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉かけが出来るよう、その都度気付いた時は声を掛け合っているが、とっさに出る言葉等は改善できていない事もある。	利用者の人格を尊重した介護サービスについて、職員会議で話し合い、職員一人ひとりが意識して、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、言葉遣いや対応について、気になる時には注意し合い、利用者がホームの中で安心して暮らせる支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の思いや希望にそった対応を心がけ環境作りに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人様のペースで生活が送れる様努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみは尊重できているが、季節感に合っていない時は声掛けを行い対応している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の準備・片づけ等役割を持って頂き職員と共にしている。又、楽しみの持てる様な好みの物も定期的に提供している。	ホームの厨房で作る家庭的で美味しい料理を提供している。利用者の能力に合わせて配膳や茶碗拭きを手伝ってもらっている。赤飯やパンの日、月1回の誕生会、一緒に作って食べるお好み焼きや焼きそば、たこ焼き等、「食」を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニューと本人に合わせた食事形態で提供できている。水分量も食事・おやつ以外にも提供し、一日を通し確保に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ毎食後の口腔ケアに努め、必要に応じて介助している。又、歯科往診時に口腔の状態に応じたケアをしてもらっている。また、週一で歯科往診で口腔内の状態の把握や口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に合わせてできるだけ無理のない支援を行っている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、利用者が重度化してもトイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間は、トイレ誘導、ポータブルトイレ、パット、リハパン、オムツ等、一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日記録し排便が数日ないときは医療関係者に指示を仰ぎ適切な対応を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングでの入浴が出来ていない事が多い。	入浴は、利用者の体調や希望に配慮して、2日から3日に1回のペースで行い、入浴時間を変えたり、清拭や足浴に変更する等、楽しい入浴になるように取り組んでいる。また、入浴が困難な利用者には、時間をずらしたり、職員が代わって声掛けし、無理強いのない入浴の支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の状態を考慮してその時々で休息できるように配慮し対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用は理解している。薬の変更があった場合にも状態や変化に気付けるよう努めている。 薬の変更等があった場合も、症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味やお手伝い・楽しみごとを取り入れ気分転換を図れるように努めているが、遠慮される事もある。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在病院受診以外での外出はコロナの影響もあり自粛している	新型コロナウイルス対策のため外出を控えているが、敷地内の散歩や川の土手の公園に歩いて出かける等、気分転換を図れるよう心掛けている。また、室内で行うレクリエーションに力を入れて取り組み、利用者が楽しく過ごせる支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて少額ではあるが所持して頂いている。外出出来ていない為、頼まれた際に職員が購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族から連絡を頂き声を聞かれる事でお互いに喜ばれている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間作りは季節感に合わせた環境作りに努め、出来る限り居心地の良い環境作りに努めている。	病院を改築した建物であるが、熱帯魚が泳ぐ水槽、季節の生花、壁には利用者と職員が制作した作品を飾り、職員の努力によって、季節感や生活感の溢れる温かな雰囲気的生活環境となっている。また、換気、清掃、整理整頓を小まめに行い、臭いのない清潔感のある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごせる様に配慮している。又、一人ひとりがゆっくりできる環境作りに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関して本人・家族の希望を取り入れ出来るだけ居心地のよい空間作りを心掛けている。	利用者が使い慣れた家具や仏壇、身の回りの大切な物を、家族の協力で持ち込んでもらい、本人が安心して穏やかに過ごせるよう支援している。また、室内は清掃が行き届き、整理整頓され、利用者が居心地良く過ごせる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけその方に合わせ自立した生活が送れる様環境を考え工夫している。		